

胃がん検診

中野医院 中野正美

日本人の近年の死亡原因の一位は「がん」です。そのうち「胃がん死」が平成8年「肺がん死」に抜かれるまでトップでした。しかし胃がんの発生数はむしろ増加しています。すでに各地で実施されている胃がん検診が「胃がん死」を減少させていると思われます。手術して、死なないですんだ人たちがたくさんいるのです。

太田市では(財)太田広域健診センターが昭和61年発足以来住民の胃がん集団健診を行ってきました。毎年確実に胃がんは発見されています。目的は、手術してしまえばほとんど治る「早期がん」を見つけることです。しかし、残念ですがなかには手術しても死亡率の高い「進行がん」あります。

今までは検診車による検診だけでしたが、平成11年度から各医療機関で行う「個別検診」もあわせて実施になりました。このことで市民の皆さんには検診が受けやすくなったと思われます。

太田市の集団検診で平成10年度は3千4百人余り受診して、みつかった胃がんは4例（早期がん2例、進行がん2例）、平成11年度は2千3百人余り受診して10例（早期がん8例、進行がん2例）でした。個別検診でも5百人余り受けてすでに3例報告されています。

胃の症状があつてかかりつけ医に受診するのはもちろん大切なことです。が、「早期がん」は自覚症状がないのが普通です。がんにならないのが一番ですが、なってしまうと「早期がん」のうちにみつけれれば大丈夫です。

毎年定期的な検診をおすすめします。
